

The History of Dior Jacket

「バー」ジャケット生誕75周年!

進化し続ける「ディオール ジャケット」の誕生と歩み

女性のファッションに革命をもたらした功績をもちながら、今なお進化し続ける「ディオール ジャケット」の軌跡を辿ります。



© Association Willy Maywald ADAGP Paris 2020.

服飾史家・中野香織さんが語る 唯一無二の魅力

服飾史家・中野香織さん

「ディオール」のテーラリング技術の真髓でもある「バー」ジャケットの伝統を継承しながら、黒で戻された12型の「ディオール ジャケット」が誕生しました。「時代感覚に合わせてアップデートしていくアーティスト的ジャケットがあるというのは、メゾンにとってこの上ない幸運」と語る、服飾史家・中野香織さんと、マスター・ピースの魅力を探ります。

「バー」ジャケットは女性の自立を応援する服でもありました。その名前は、「ディオール」本社の近隣に位置する名門ホテル「ラザ・アーテネ」に由来。曲線的なラインではあります、テーラリングの技術を使使し、女性がひとりで安心してバーリングするというコンセプトでつくられたもの。コンセプトと基本のデザインが確固たるものであるからこそ、時代が変わり、女性の社会的地位や、女性らしさのとらえられ方が変化しても、時代に応じたシルエットの変化や、色や柄、素材のアレンジにより可能性が無限に広がって。これが、それが時代を超えて輝きを放つ「タイムレス」な強みになっています。なんだから肩のライン、絞ったウエスト、ペプラムの裾、開いたネックラインを特徴とした一着は、時代の豊かな曲線美を強調した一着は、時代のムードを一気に変える革命的な存在

アトリエの職人に 受け継がれる クチュール技術と美意識

女性の美しさを肯定するムッシュ・ディオールのDNAが盛つく「バー」ジャケット。しなやかな綿のラインから、シェイプされたウエスト、ペプラムに広がる裾と、流れれるような袖形使いは、サヴォワールフルームが誇る、伝統的な手縫いだからこそ叶います。150時間にもわたる繊細な工程を経て、豊富の一層き高さ。



「上」物語の場は人による丁寧な手の動きは、タッチホール、ゾンの動き。〔下〕型崩れから起にしたキャラクタの動きやキューに繋がってきてから、ビンを打ち込み、フォームをより正確で強調していく。



1900年から1903年までヨーロッパを巡回する「ヨーロッパ・ショーカルチャーズ」。アントワネットは、ヨーロッパを巡回するアーティストの巡回劇場に登場する。アントワネットは、ヨーロッパの舞台で、アーティストとして活動する。ヨーロッパ・ショーカルチャーズは、ヨーロッパを巡回するアーティストの巡回劇場である。



10 of 10

エレガンスを体現した
シルエットが
女性に夢をもたらす

第2次世界大戦後まもない1947年2月、初のオートクチュールコレクションが発表される。エレガントな風を体現した「ニュールック」は、栄光に輝く女性を呼び覚まし、希望という新たな風を吹き鳴らす。「ニュールック」原曲と呼ばれたコレクションの中でも『バー』シャツカットが圧倒的な輝きを放つ、女性の心をとうらわなのです。

アップデートし続ける マリア・グラツィア・キウリの モダンな感性

マリア・クラフィア・キウリのコレクションでは、再解釈された「バー」ジャケットのデザインが、つねに注目の的だ。襟やボタンの仕様、素材使いに、健気のモダンな感性が宿り、躍動女性の心に共鳴します。気温がありながら、フレッシュ感を纏えたデザインが特徴で、ニット素材やキルティングといった軽量なアプローチが冴えて。Tシャツやアニムに合わせる軽たな着物にも心が躍ります。

ハノア君はおもむろに腰を下す。彼の姿勢は、まるで馬鹿の如きが、馬鹿の如きの前で威勢よく立派な態度を取るやうだ。